

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 59-062513 (

(43)Date of publication of application : 10.04.1984 ,

---

(51)Int.Cl. A61K 7/02

---

(21)Application number : 57- (71)Applicant : SHISEIDO CO LTD  
172675

(22)Date of filing : 01.10.1982 (72)Inventor : HACHIMAN YOSHIO

---

## (54) SOLID COSMETIC

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** A solid cosmetic good for skin physiology, having beautiful surface state, by melting a cosmetic composition containing a solid oil and powder under heating, solidifying it in a cylindrical container, taking it out of the container, cutting it into a proper thickness, packing it into a final container, pressing it at low pressure.

**CONSTITUTION:** A cosmetic composition containing an oil having a solid oil and powder as main components are melted under heating, made to flow, packed into a cylindrical container, and cooled to  $\leq$  a temperature wherein the solid oil is solidified. The solidified cosmetic is taken out from the cylinder, cut into a proper thickness, packed into a container, etc., and pressed at low pressure, to give a solid cosmetic containing an oil between a cake type or cake (soft) type and an oil type, having no problems with respect to cosmetic effect and skin physiology, free from difficulty of packing and molding, without damaging appearance of products. The amount of the oil blended is 35W70wt% based on the cosmetic and the amount of the powder blended is 30W65wt%.

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—62513

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 61 K 7/02

識別記号

庁内整理番号  
7306--4 C

⑬ 公開 昭和59年(1984)4月10日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ 固形状化粧料

鎌倉市雪ノ下1—5—24

⑯ 出 願 人

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

⑰ 特 願 昭57—172675

⑱ 出 願 昭57(1982)10月1日

⑲ 発 明 者 八幡佳夫

明 細 書

されるものが製品化されている。

表 - 1

油 分 量 (重量%)	ク イ プ	使用性の長短
10	ケーキタイプ	サッパリするが 粉っぽい
20		
30		
40	油性タイプ	粉っぽくないが しっとりしていない
50		
60		
70		

1. 発明の名称

固形状化粧料

2. 特許請求の範囲

(1) 固型油分を含有する油分と粉末とを主成分とする化粧料組成物を加熱溶解して筒状の容器等に流し込み充填した後、固型油分が固化する温度以下で冷却し、固化した化粧料を筒から取り出し適当な厚さに切ったものを容器等に充填し、低圧プレスして得られる固型状化粧料。

(2) 固型油分を含有する油分の配合量が35～70重量%、粉末の配合量が30～65重量%である特許請求の範囲第(1)項記載の固型状化粧料。

3. 発明の詳細な説明

本発明は固型状化粧料、さらに詳しくは適量の油分を含み皮膚生理的に良好で表面状態の美しい固型状化粧料に関する。

従来、固型状メイクアップ化粧料としては、油分と粉末の配合量により表-1のように位置付け

(使用上上表のように3タイプに分類した。)

しかし、このような従来のメーキャップ化粧料には次の如き欠点がある。ケーキタイプは使用性面ではサッパリするが粉っぽい。皮膚生理的にも肌質や季節によって肌の乾燥、かさつきを新える

場合がある。これは化粧面粒が大きいほど問題となる。ケーキ(ソフト)タイプはケーキタイプに比べ、油分の効果によって使用性面では粉っぽさが抑えられ、仕上げ効果も良好であるがまだしっとり感が不足している為、皮膚生理的に肌質や季節によって肌の乾燥、かさつきを訴える場合がまだある。油性タイプはしっとりしている為、冬期の肌の乾燥を防ぐなど皮膚生理的には良好な面があるが、使用性面でベタツイたり、塗布した部分の動きによって経時でよれてきてむらになるという欠点がある。

そこでケーキ(ソフト)タイプと油性タイプの中間の油分量を持ち、化粧効果と皮膚生理的に問題ない製品の開発が望まれてきたわけであるが、次の如く、充填成型に困難な面があり、実現出来なかった。

らが追試してみた結果、油脂類が30～35%の組成においては加熱しても流動性がでない為中間に流し込めない。又、油分が35%～70%の組成においては中間に流し込めても、固型油分が固化する前のプレス成型では固型油分の粘着性が残っている為、成型機のプレッシャーパッドに付着して、表面が凹凸となったり、固型油分の固化力による収縮によって中間との間にスキ間ができていたりして、外観を著しく損ね、満足な製品は得られなかった。

本発明者らは、かかる事情にかんがみ、鋭意研究を行った結果、加熱溶解した油分、粉末化粧料組成物を充填しようとする最終容器の内径より若干小さい内径を有する筒状の容器に流し込み充填した後、固型油分が固化する温度以下迄冷却し、固化した化粧料を筒から取り出し適当な厚さに切ったものを最終容器に充填し低圧プレスすれば、前述の如き欠点をことごとく解決できることを見出し、本発明を完成するに至った。

すなわち、本発明は固型油分を含有する油分と粉末とを主成分とする化粧料組成物を加熱溶解し

すなわち、従来、ケーキタイプ及びケーキ(ソフト)タイプのように油分が少ない場合には、粉末に油分、香料等を混合した後に粉碎しコンパクト中間等にプレス成型する。

一方、油性タイプのように油分が多い場合には、混合粉碎した粉末を、加熱溶解した油分中に加え、溶解した状態でコンパクト中間等に流し込んで冷却固化させる。しかし、ケーキタイプ、ケーキ(ソフト)タイプと油性タイプとの中間の油分量を持つものにおいては、プレス成型は困難であり、又この組成物を加熱溶解しても流動性が殆んどなく、容器に流し込めず、又流し込んだとしても中間の端まで流しこめなかったり表面がもり上がったたりして、製品の外観を著しく損ねることを免れなかった。

上記の欠点を解決する方法として、特開昭56-131510 では、加熱してある程度流動性が出てきた組成物を中間に流し込んだ後に固型油分の固化する温度以上の温度でプレス成型して、プレス状化粧料を得る方法が開示されているが、本発明者

で、筒状の容器等に流し込み充填した後、固型油分が固化する温度以下迄冷却し、固化した化粧料を筒から取り出し適当な厚さに切ったものを容器等に充填し、低圧プレスして得られる固型状化粧料を提供するものである。

以下、本発明の構成について述べる。

本発明で用いる固型油分は融点40℃以上のものであり、高級アルコール、高級脂肪酸、炭化水素、天然ロウをはじめとする各種エステル、天然油脂をはじめとする各種グリセライドのうち、融点40℃以上のものが、1種あるいは2種以上、任意に選ばれて使用される。これらの固型油分の例としては、例えばセチルアルコール、ステアリルアルコール、ステアリン酸、ペヘニン酸、固型パラフィン、マイクロクリスタリンワックス、ポリエチレン末、キャンドリラロウ、ビースワックス、カレナウバロウ、バリコワックス、硬化ヒマシ油を挙げることができる。固型油分の配合量は散固型状化粧料の10～600重量% (以下、単に%と称す) である。10%より少ないと、固型油分特有の硬さ

特開昭59- 62513(3)

か尖なわれて、固形状化粧料の表面が収らなくなり過ぎ、60%を超えると逆に表面が硬くなりすぎどちらも化粧用具（スポンジやパフ）への化粧料のとれが適当でなくなるので好ましくない。

本発明で用いられる固型油分以外の油分は、一般に化粧料に用いられる植物油、動物油、鉱物油、合成エステル油及び合成シリコン油である。これらの例としては、例えばオリーブ油、ホホバ油、ヒマシ油、ラノリン及びその誘導体、スクワラン、流動パラフィン、ワセリン、トリメチロールプロパントリイソステアレート、イソプロピルミリステート、グリセロールトリ2エチルヘキサノエート、ペンタエリスリトールテトラ2-エチルヘキサノエート、ポリフェニルメチルシロキサンを挙げることができる。固型油分を含めた油分の配合割合は該固形状化粧料の35～70%である。35%以下では加熱しても流動性が悪く筒状容器に流し込み難い。70%を超えると出来上った固形状化粧料が油っぽくなり、肌につけたとき上すべりするようになり、化粧もちも悪くなる。

本発明で用いられる粉末は、一般に化粧品に利用される粉末類で、例えばタルク、マイカ、クレー、カオリン等の体質顔料、酸化チタン、亜鉛華、酸化鉄、群青等の無機顔料、及び有機顔料等であ

る。配合量は、30～65%で油分（固型油分を含む）の量によって決定される。

本発明に係る固形状化粧料には上記の必須成分の他、必要に応じて色素、防腐剤、香料等を配合することができる。

上記本発明の固形状化粧料の製造法は次の通りである。すなわち、上記固型油分を含む油分と上記粉末とを、該固型油分の融点以上で加熱混合する。この混合物を充填しようとする最終容器の内径より若干小さい内径を有する筒状の容器等に流し込み充填した後、固型油分が固化する温度以下迄冷却し、固化させる。この固化した化粧料を筒状容器から取り出し、適当な厚さに切ったものを容器等に充填し、低圧プレスする。プレス圧は $1\text{ kg/cm}^2 \sim 30\text{ kg/cm}^2$ である。 $30\text{ kg/cm}^2$ を超すと中身が必要以上にへこんだり、容器等の外へはみだしたりして好ましくない。又この低圧プレスの際、フレッシュパッドと該固形状化粧料の間に布等を介在させれば、該化粧料の表面に美しい各種の模様を好みに応じて施すことができる。

本発明の固形状化粧料にあっては、筒状容器内で固型油分が固化した後に取り出し適当な厚さに切って最終容器に充填した後にプレスを行なうので、固化力の強いカルナバ<sup>ワ</sup>ロウやバリコワックス、ポリエチレン末等を多量に配合してもプレス成型後、中身と中身との間にスキ間があいたりしないので、使用性を自由に調節できる。又、フレッシュパッドと中身との間に布等を介在させれば種々の模様を中身が布等に付着することなく施すことができる。さらに本発明の固形状化粧料にあっては、筒状容器中で固型油分の固化温度以下迄冷却し、それを取り出し適当な厚さに切って容器に充填してプレスするので、中身充填後直ちにプレスしなければならないという様な工程上の制約を受けることもなく、これまでにはない油分量、粉末配合量を持つ新規な化粧料を得られるので、その価値は極めて高い。

次に本発明の実施例を示す。本発明はこれによって限定されるものではない。配合量は重量%である。

特開昭59- 62513(4)

実施例 1、2、3 ファウンデーション

	実施例 1	実施例 2	実施例 3
① カルナツバロウ	1.5 <sup>5</sup>	1.0	1.5
② 固型パラフィン	6.0	6.0	5.0
③ スクワラン	28.5 <sup>5</sup>	23.8	21.0
④ シリコン油	1.5	11.2	6.5
⑤ 活 性 剤	1.0	5	1.0
⑥ マ イ カ	1.0	1.7	2.0
⑦ カ オ リ ン	1.0	1.0	1.0
⑧ 酸化チタン	1.5	1.5	1.5
⑨ 有 機 粉 末	5.0	5.0	5.0
⑩ 着 色 顔 料	5.0	5.0	5.0
(i) 香 料	1.0	1.0	1.0
合 計	100	100	100
プレス圧 kg/cm <sup>2</sup>	2	10	2.5

(製 法)

③～⑤を混合する。その中に⑥～⑩を添加して混合する。その後、①～②を添加して加熱し、十分混合する。その後脱気し、香料を添加して筒状容器に流し込み充填する。

冷却後中身を筒状容器から取り出し適当な厚さに切<sup>(4)</sup>って中皿に充填した後低圧でプレスする。実施2にあつては、プレッシャーパッドと中皿との間に絹布を介在させた。

実施例1、2、3は中味と中皿の間にスキ間もできず、表面状態の美しい(とくに実施例2)固型化粧料である。

特許出願人 株式会社 資 生 堂